

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 73 2009年3月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

アヤメ園の七つ道具

アヤメ園受託事業 佐藤 輝雄



姿形はどこから見てもプロ イラスト 久保田 節子

当初の予定では、一月・二月の活動はアヤメ園の畝が凍っていることや、雑草も休眠状態で伸びないことなどで作業を中断することとしたが、今年の冬は比較的暖冬で雑草が伸びてきたり、地面が凍らない等のために二月初旬から作業を開始した。二月はじめに、来年度の活動方針と作業方法の確認のため全員で打ち合わせを行った。今年度の反省としては、約全体の八割が三年目の株分けとなり作業が大変だったこと。そのために除草作業に遅れが生じ、雑草が大きく身の丈ほどに育ち処分に苦慮したこと等があげられ、次年度から毎年平均に株分けできるように計画することや、株分け後の品種の整理(株分けするためにバラバラになってしまふ)を行う。また除草後の処分方法について話し合った。

二月中旬には稻荷川の土手の野焼きが行われたため、あやめ園周辺のゴミ拾い清掃や、雑草・枯草等を一緒に燃やす等の美化作業もおこなった。

さて、今月は私たちが常日頃あやめ園を管理するための商売道具を紹介してみたい。まず服装についてだが、「帽子」、直射日光や水面から反射する紫外線による日焼け防止のため、一年を通じての必需品である。特に女性の人は眼だけを出しているため良く顔を見ないと誰だかわからないくらい顔を覆う。次に一番消耗の多い「手袋」だが、軍手に緑色のゴム引きしたものが多く使われ、全体がゴムのもの等その人の作業の仕方によ

って使いやすいものを使用している。「長靴」赤や黄色の模様のついたカラフルなものが多いが、意外と色の境目がひび割れしやすく水漏れが生じる。泥深い田んぼに足を取られるため足にあつた製品を選ぶのも大変であり、手袋・長靴とも年間の消耗度が高く個人歳出の費用もばかにならない。作業スポンや作業服はすぐに泥まみれになるため、洗濯してもすぐ乾くものを選ぶ。布地に付いた泥しみは、泥染めと同じく絶対に落ちない。下着等も作業専用を用意する。

次に道具の紹介をしよう。除草に欠かせないのが「鎌」、鎌にもいろいろと種類があり、普通の鎌、鋸鎌、長柄草かき等がある。除草した草を入れるカゴやバケツ、除草中腰掛けるためのイス（風呂場のイスを利用）は自分の尻に合わせるため個人で用意する。雑草を運ぶ一輪車、リヤカー、そして畝を作ったりするスコップ、鍬、表面をならす金製の熊手、あるいは園路を掃除するための竹熊手・竹箒。この他に池の土手等を補修するための竹割り、鉋、鋸、カケヤ、池に入るための胴長。また機械では、園路やのり面を整備するための刈払い機、草刈り機、耕運機、夏に活躍するエンジンポンプ等で、二棟ある物置はいつも満杯状態である。私たちの商売道具であるこれらの機器類も常に清掃整備しておかないと錆で切れなくなってしまう。プロには道具選びや管理も大事な作業である。今年もきれいな花がたくさん咲くように頑張っていきたい。

うしく里山の会には
個性豊かなプロジェクトが
たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？
それでは紹介しましょう！



**プロジェクト
活動報告**




巨木リサーチ事業報告

簡 晶子

平成二十年度を振り返って

巨木リサーチ事業最終年度が無事終了、本年度は二十四名での活動となりました。調査は市内の寺社を除く個人所有の樹木を対象としました。活動は第一日曜日と第四土曜日の月二回です。四月の第一回目は全員で新年度の活動打ち合わせを行いました。現地調査十五回、研修見学四回、エコツアー一回、今年に入り一月に内部報告会、そして三月一四・十五日には「牛久自然観察の森」に於いて公開報告会を予定しております。

現地調査は全三十八箇所、五十九本の樹木の調査・撮影を行い、その内訳は巨木二十六本、古木十六本、希少木十七本です。調査活動に参加した延べ人数は二百十八名に及びます。研修見学は、七月に白神山地一泊エコツアー、八月に茨城県自然博物館見学、十月に皇居東御苑・日比谷公園樹木ウォッチング、十一月に鹿行方面神社境内巨木見学、二月に筑波実験植物園見学を実施しました。昨年十月には、牛久自然観察の森で行われた「うしく里山秋祭り」のイベント《木の大きさを測ってみよう》にも参加しました。

次に街路樹班の活動を振り返ります。平成十九年八月から発足したプレート取り付けの委託契約の年にはいり、市緑化推進課の管理対象外の五

地点（近隣公園・市役所・図書館・中央学習センター運動公園）の追加調査を行いました。昨年十二月二十六日に市との委託契約を結び、新たなメンバーも迎えて、受託事業「チーム街路樹20」が発足、巨木事業から独立しました。二月から樹名板の取り付け作業にはいります。

また、一昨年九月より連載している「広報うしくわが街の木」のコーナーの写真撮影と解説文は、引き続き「チーム街路樹20」のメンバーが担当していくことになりました。毎月一日版に、市内の街路樹及び公共の場所にある樹木が順次掲載されていきます。

さて本年度の調査活動は、対象が個人所有の樹木ということで、まずは調査木の探索と選定という作業から始めなければなりません。その結果、メンバーの足と目で見つけ出された樹木は百二十六本にも及びます。次にそれらの所在地・樹種名を確定し、さらに調査木としての選定基準を満たしているかどうかの予備調査を実施、最終的に五十九本を選定しました。

実際の活動においては、個人宅の敷地内での調査ということで、いろいろ気遣う点は多かったのですが、どちらのお宅でもたいへん好意的に迎えていただきました。多人数での訪問となり恐縮してしまいましたが、巨木を有する旧家の敷地は広く、快く受け入れてもらえました。普段、道沿いに垣間見ていただけの樹木を、屋敷内で間近に見ることができたのはうれしい体験です。その木に

まつわるお話も、家人の方からいろいろ伺うこともできました。夏には冷たいお茶を用意していただいたり、自家製のスイカをご馳走になったこともありました。あらためまして、本年度調査活動にご協力いただいた皆さまに感謝したいと思えます。ありがとうございました。



定期活動時の記念写真 08.10.5 渡辺



(チーム 街路樹 20)の発足会議 09.1.17 佐藤



親子農業体験講座

横山 さえ子

平成二十一年度は、これまでの「じゃがいもプロジェクト」「そばプロジェクト」を統合し、じゃがいも・里芋・さつまいも・そばを四月から二月にかけて、植付け（種まき）から収穫、そして食べるまでの農業体験講座として開催します。「広報うしく」などで、親子の参加者の募集をして、楽しみながら体験してもらいます。

テントウムシがたくさんいたり、カエルができたり、ねずみがとびだしたり、そのたびに子どもたちは大喜び。静かで広々した畑で安心して農業体験ができます。でも農業は肉体労働。指導する私たちは、一年毎に作業が身にこたえるようになりました。作業面積を少し縮小、そして作業者には何株か自分のものとして育ててもらいます。当然できたものは当人のもの、名札をつけてもらいます。

会員の皆さん、初めての方法です。きつと楽しさ、うれしさいっぱい講座になります。

是非、手助けをよろしく
お願いいたします。



七月までの日程（全て土曜日、雨天時は次週）
 四月四日、五月二日、五月二十三日、
 六月十三日、七月四日、七月十八日（収穫祭）、
 七月二十五日
 時間 九時～十二時
 場所 梅林奥の畑
 参加費 会員無料（収穫祭は別途）
 服装 長袖、長ズボン、長靴、帽子、タオル、飲み物、包丁（ナイフ）
 申込み先

横山（ 874-1430・午後七時～九時）



里山自然観察隊事業報告

平塚 芳雄

今年度の活動を振り返って

今年度の主な活動としては一般市民の参加を募った「植物ガイド」と里山の会・会員主体の「植物観察会」が挙げられます。

「植物ガイド」は四回計画し、四回とも無事実施、延べ六十六名（内一般三十一名）の参加がありました。

「植物観察会」は五回開催、延べ四十名の参加。今年度の「植物観察会」は三カ年計画の二年目として小野川中流域の右岸と左岸の林地（下根町の雑木林・観察の森コジユケイの林）及び湿地（岡見・上太田・結束の水田六カ所）を観察フィールドとして同じ場所で季節を変え、複数回調査。それらの場所で、草本は湿地で約四十六種、林地で約七十五種、木本は林地で約六十七種を確認、その発生量を記録しました。絶滅危惧種と言われる種も幾つか確認。その他の活動としては成果公表の場としての「環境フェスタ」への出展、里山の秋祭りへ参加しました。

観察隊の活動目的は身近な植物の観察を通じて変わりつつある郷土の自然状況を知り、市民に現状を知らせ、考え、行動することにより緑豊かな環境が保全されることを目指すものです。「植



下根町雑木林・植物観察会 08.08.05 平塚

物ガイド」で毎回配布している資料も植物の構造や成長過程、生育環境の変化、その要因としての人間活動の変化や社会事情にも考えが及ぶような内容で渡辺泰さんが作成し、解説してくれています。

今年度の観察、調査活動においても気になり心配になる現状を見ることになりました。セイタカアワダチソウ、アレチウチ、セイバンモロコシ等の外来種の繁茂、耕作放棄された水田、湿地の減少、溜池や小川が少なくなり、多くが三面コンクリートの用水路に。除草剤の使用が赤茶けた畦の雑草。農薬使用の効果が雑草が殆ど見られない水

田。山林の減少（牛久市内の山林面積の割合は二十数年の間に三分の一から五分の一近くに）。管理放棄された竹林や山林。山林への竹・アズマネザザの侵入など。

一方、身近な住宅街の歩道際に生えた何種ものスミレの花や畦道・路傍の小さな野草の花の美しさなどの新たな発見。厳しい環境下で時には遅く時には健気に必死に生きようとしている姿に接し勇気を与えられることも。

来年度の活動も、『植物ガイド』と『植物観察会』が二本柱です。運営面、幾つかの課題を抱えながらですが植物観察を通じて地元の現状を楽しく調査・観察していきたいと思っています。



うしく里山の会全体事業のお知らせ

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

三月は十四日（土）と十五日（日）の実施となります。元気な森づくりを行います。

集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前

時間 午後一時～三時

予約不要（雨天中止/強風時中止）

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物（長袖、長ズボン）

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

問い合わせ先 (029-874-6600 担当：石神)

今月の古木・希少木 No.23 テーダマツ

マツ科マツ属。北アメリカ原産で、東海岸アパラチア山脈南部のテネシー、オクラホマ、フロリダ、テキサツに広く分布する。マツ属の中で最も湿地を好む。常緑高木で雌雄同株、生長は早く幹は直立し、原産地では通常高さ二〇～三〇m、径は〇・八～一・二mになり、樹形は写真のような広円錐形。樹皮は幼木では灰色または帯黄色で平滑、老樹では赤褐色で深い裂け目を生じ、鱗片状に剥落する。葉は三針（三葉松類）、二本の針状の細い葉が束生し、長さ十一～二十五cm。少しねじれる。葉先は鋭く尖り硬い。裸子植物で球果（松ぼっくり）は長さ八～十五cm。卵状円筒形。果鱗の背面に三角状の反捲する刺がある。種子は菱形、暗褐色、斑が入る。

日本には明治の終りに渡来。牛久市内では数は少ないが、民家の庭や小学校の校庭などに植栽されている。今年度の巨木リサーチでは希少木の一種として二本調査。幹周は二百六十五cmと二百九十七cm、樹高は二本とも二〇m弱。タエダマツとも称するが、ラテン語の種名 *taeda* のローマ字読み。松脂のある、松明といった意味。

（平塚 芳雄）



テーダマツの樹形 08.5.15 渡辺



牛久自然観察の森からお知らせ 渡邊 浩美

森の作品展 作品募集のお知らせ

観察の森に春の訪れを告げる「森の作品展」、いよいよ開催が迫ってまいりました。ネイチャーセンター中央ホール

を全て使用する、この年に一度の展示会では、観察の森で撮影された写真、製作された竹細工、木炭画、バードカービン

グなどが一堂に会します。会期は三月十四日（土曜日）から二十九日（日曜日）まで。作品の募集

はそれに先立って三月七日（土曜日）から十三日（金曜日）まで行います。

例年、本会員の方からも個人的に出展がありますが、事前に相談いただければ、写真やお花

炭、つるかごなど、プロジェクトでの成果物の発表の場も設定いたします。この形での出展もお待ちしております。

なお、写真を出展される場合は四つ切りサイズで一人三点までとなります。その他、出展物の大きさによっては展示箇所の希望に添えない場合もございますのでご了承ください。皆様の出展お待ちしております。

（平成二十年度森の作品展担当 丸山）





その他の活動報告

坂 弘毅

うしく里山の会は法人格を取得してから早や四年が経過しました。設立趣旨や定款にありますが、「環境の保全」はもちろんのことですが、「社会教育の推進」、「まちづくりの推進」、「子どもの健全育成をはかる活動」、「前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動」。

うしく里山の会は、会の目的を達成するため、以上の特定非営利活動を行っています。これまで、会の直接の事業だけを報告してきましたが、これからは、うしく里山の会が地域においてどれだけ根づいているか、他団体との連携協働はどうなっているのかを細かく報告してまいります。

平成二〇年度後期の主な連携協働について
牛久市の根古屋川清流化計画に協力(9/10)
観察台設置のための広域除草と
うなぎ幼魚放流に協力。

中根小学校の国語授業に協力(下記報告)
景観まちづくりフォーラムにて(3/7)
牛久市の景観まちづくり報告(坂)
稲北ブロック(旧稲敷郡内市町村の)
ボランティア研究会にて(2/23)

うしく里山の会の活動報告(坂)
ゆめまちメッセで基調講演(3/15)
牛久の歴史再発見(坂)

ひたち野うしく「まちそだて協議会」に法人として参加要請あり。

中根小学校の国語授業
「環境パンフレット」


づくりの協力について

過日、中根小学校から、市内で環境問題に携わる団体、数団体に国語の授業に協力してほしい旨の要請がありました。うしく里山の会もその一つの団体として坂が参加いたしました。


内容は、四年生が国語の授業で環境パンフレットを作るため、グループごとのインタビュールに添えていただきたいというものでした。

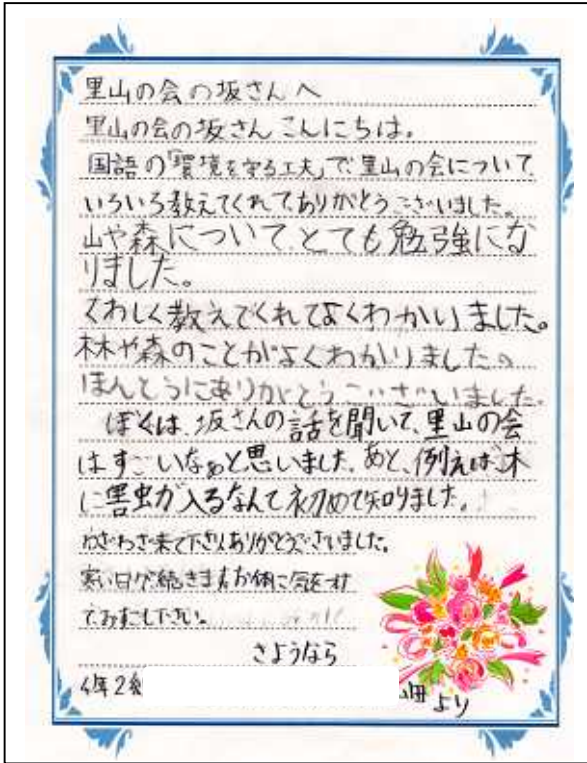
うしく里山の会はどういう団体、何名、活動内容等々、矢継ぎ早やのインタビュールに汗をかきながら対応しました。ここで少し時間をかけて説明したのは健康な森林づくりの必要性です。
エコアップ作戦を一つの例として説明し、健康な森林が、温室効果ガスを沢山吸収してくれること、保全の仕方にも工夫が必要で、動植物の食物連鎖を意識して保全していることなどを解説しました。
その生徒から、先日礼状が届きましたので紹介します。

里山の会の坂さんへ
坂さんこんにちは。
国語のパンフレット作りではいそがしいなかわたしたちのためにきてくださりありがとうございました。
パンフレット作りで里山の会の坂さんの話をきいてとても良いパンフレットをつくることができました。
里山の会の話をきいてどんな活動をしているのかがわかりましたとてもイベントきょうになりました。これからも毎日寒い日が続きますがお体に気を付けてお過ごしください。
さとうめ
4年2組



牛久里山の会の方へ こんにちは。
9月16日に、中根小学校で、牛久里山の会のことについて詳しく教えてくださってありがとうございました。ぼくは、食物や人さがあることは知らなかったし、車がCO2をあんなに出しているなんて知りませんでした。
ぼくは、牛久里山の会で自然を守っているのをきいたので、ぼくも自然を大切にしようと思いました。
4年3組





「東風(こち)吹かば にほひおこせよ 梅の花
あるじなしとて 春な忘れさ」
拾遺和歌集 菅原道真



南部の自然を守る会報告

阿部 幸浩

二月十二日行われた南部の自然を守る会役員会の結果を報告します。

今年も成井集落(十一戸)のみなさんと一緒に遠山のゴミ拾いと遊休農地の保全作業(主に草刈り)を行います。皆様ご参加ください。

日時 三月一日 八時～十二時三十分

集合 成井公会堂前集合(八時)

昼食 飲み物と昼食を用意します

機材 草刈り機と燃料も用意します。

昨年 懸案事項であった安全確保のためのカラーコーンなども用意しました。

活動のシンボル!南部の自然を守る会の「のぼり旗」も披露します。

つばめ保育園のホタル観察会の支援について

昨年七月末に行った(園児の参加は残念ながら雷で中止)ホタルの観察会。

来年度は南部の自然を守る会としても当日協力することが決まりました。地元の方の協力もいただけるようになって、今年の夏は楽しみです。



第四回たつやまセミナーのお知らせ

日時 平成二十一年三月二十九日(日)
十時～十二時
会場 三日月橋生涯学習センター

*入場無料・当日先着五十名
事前予約はいりません。

講師:神保 賢一路 氏

演題『生き物と共存する公園づくり』

プロフィール

昭和二十七年生まれ。里山の生きものの暮らしを考慮した維持管理を実践した先駆者。

日本で初めて、里山の管理の実用的で分かりやすい「生き物と共存する公園づくりガイドブック」を平成二〇年二月に出版した。

横浜市において、三〇年以上公園維持管理業務に携わり、野生生物との共存を目指す維持管理作業の普及、啓発活動に努めるかたわら、ヤマセミの調査と保護活動に取り組む。

平成十九年には、管理を担当した「小雀公園」が第二十三回都市公園コンクール管理運営部門国土交通大臣賞を受賞。

(横浜市環境創造局南部公園緑地事務所勤務)

3月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
1 南部の自然を守る会 8:00成井公会堂 チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC	2 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC	3 チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	4 チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC	5 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC	6 チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC チーム 街路樹(受) 13:00ボランティアC ミーティング	7 チーム 街路樹(受) 9:00ボランティアC
8 雑木林応援隊 9:00ムジナ	9 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10 (休園日) 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	11	12 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	13 里山自然観察隊 9:30NC	14 巨木リサーチ(特) 10:00NC エコアップ 13:00NC そば ? 時間場所 (会報等原稿×切)
15 巨木リサーチ(特) 10:00NC エコアップ 13:00NC	16 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	18	19 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	20 (春分の日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋	21 雑木林応援隊 9:00炭小屋 運営委員会 9:00NC 理事会 11:00NC
22 雑木林応援隊 9:00炭小屋	23 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	24 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	25 会報発送 13:00NC	26 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	27	28
29 さとやまセミナー 10:00三日月橋 生涯学習センター	30 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P					

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジュケイ:観察の森内コジュケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

会報のように毎月定期的に発行しているものに携っていると、月日の過ぎるのが早く感じますね。歌にもありました。「もつすぐ春ですね・・・三月「弥生」。

フリー百科事典「ウィキペディア」によりますと、旧暦三月を弥生(やよい)と呼びその由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月(きくさいやおひづき)」が詰まって「やよひ」となった説とあります。そして、三月六日頃が二十四節氣の一つ「啓蟄」、冬ごもりしていた昆虫や、カエルやヘビなどが地中から出てくる頃という意味です。

資料によりますと実際に動物や昆虫が冬ごもりから目覚めるのは種類によって違います。最低気温が「五度を下回らなくなる頃」といわれます。牛久周辺ですと三月下旬頃のような感じです。これから里山の自然と接する楽しみの時期ですね。

私もいろいろ文章を書く機会がありますが、最近パソコンでは簡単に出てくる漢字も、手書きではすぐに出てこなくなりまして。ぼけないように脳の活性化を図るために、最近は漢字パズル等を楽しんでいます。書店にもたくさんありますね。

ところで皆さん「芹・薺・御形・繁縷・仏座・菘・蘿蔔」この漢字はなんと読みますか。春の七草を漢字で書いたものです(せり なずな ごぎょう はこべら ほとけのぎすずな すずしろ これぞ春の七草)。

蒲公英・菖蒲・花菖蒲・杜若(たんぼぼ・あやめ・はなしょうぶ)かきつばた「は同じアヤマ科ですが「しよぶ」はサトイモ科で五月節句に菖蒲湯にします。

皆さんも漢字の遊びをしませんか。

佐藤輝雄

広報委員会からのお知らせ

次号3月号の印刷発送は3月25日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いたします。